エンジョイ本宮高倉山シリーズ⑨

植田 章夫（旭）

前回は高蔵神社についてご紹介しました。今回は山登りの話題に戻り、本宮高倉山から南尾根で連なる牟佐山についてご紹介します。牟佐に牟佐山という山があることをご存じない方も多いかもしれません。この山は標高334m、三等三角点を有し、山陽高速道の牟佐トンネルの真上にそびえており、県道 27 号の土手を北上する際には、本宮高倉山を隠すように正面に見えています。

右の地図に既にご紹介した登山ルートに加え、赤い線で牟佐山へのルートを示しています。最短ルートは、玄竜院の東側の参道から鉄塔巡視路を登る道です。山頂東方向の道は、夏場は背丈ほどの笹で覆われてしまいますが、鉄塔巡視路なので秋になると鉄塔管理者が笹を刈ります。そのため、秋から春にかけては比較的登りやすくなります。一方、本宮高倉山から南下する南尾根のルートは、目印テープと GPS を頼りに歩く、難易度の高い森林ルートとなります。

牟佐山頂上
眺望はありません

牟佐山頂上付近の鉄塔から
野々口方面の眺望

また、牟佐山一帯は標高 200m までは急斜面ですが、それを超えると緩斜面になります。緩斜面には古墳群や、たたら製鉄跡が見つかっており、本宮高倉山の磐座（いわくら）や炭焼き窯跡とあわせると、古代の人々が牟佐山から本宮高倉山にかけて、この山域を縦横に活動していたことがうかがえます。

次回はその他のルート（まだあるんです）などをご紹介します。

高蔵神社遙拝所

鳥井にあります遙拝所は、遠く高倉山の中腹に鎮座しています本殿を臨む位置にあり、ここで手を合わせれば、居ながらにして本殿にお参りしたことになります。遙拝所は昭和４５年にそれまでの木造から、鉄筋コンクリート造りに建て替えられました。昭和４５年といえば牟佐刑務所が完成し、大阪で万博が開かれた高度成長期の走りの頃でした。

５５年の月日を経て老朽化も進み、令和７年４月に思い切ってリフォーム工事を行いました。鮮やかな色合いに驚かれた方もおられるようですが、中国の故事にならって色決めをしました。日本の神社は中国の四方を守る動物の色を基調にしているようです。奈良の明日香村の壁画にもありますが、東は青龍（青）、南は朱雀（赤）、西は白虎（白）、北は玄武（黒）が守り神になっています。我々の生活を氏神様に守っていただけるよう遙拝所にお参りしましょう。

（高蔵神社奉賛会　佐々木 哲明）

編　集　後　記

新年明けましておめでとうございます。今年は午年。午は力強さとスピードを象徴し、前へ進む原動力を与えてくれる存在です。考えすぎて足が止まるよりも、まずは一歩を踏み出す勇気が大切な年になるのではないでしょうか。馬が広い草原を駆け抜けるように、私たちも新しい挑戦に向かって軽快に走り出すことが運を呼び込むことになると思います。

多少の起伏や曲がり道も、勢いと仲間との絆があれば乗り越えられると思います。今年は「行動力」と「つながり」をキーワードに、元気いっぱいの一年を築いていきましょう。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

（電子町内会運営委員）